

高度な専門職業人の育成

応用生物科学部 学部長 福井 博一



中近東の政治情勢が不安定化している報道の中で、第二次大戦後70年間の平和を守り続けてきた日本人の豊かな心を改めて大切にしたいと思う昨今です。一方で、今年の夏は全国各所で異常な豪雨が発生し、被害に遭われた同窓生の皆様に心よりのお見舞いを申し上げます。

さて私こと、学部長を拝命して2年目をむかえ、3名の副学部長、事務長および事務長補佐に支えられ、学部教職員のたゆまない活動支援を受けて、学部の教育・研究の発展に邁進している所です。

岐阜大学は、本年度から学長を始めとする執行部の顔ぶれが変わり、国際化と地域連携、そして専門職業人の育成を柱とする方針を掲げています。学部から選出された国際・広報担当理事鈴木文昭教授と学術研究・情報担当理事福士秀人教授の下で、これらの大学の方針に向けて学部として積極的に活動を継続しています。

国際化に関しては、8月上旬に連合農学研究科と応用生物科学研究科が共

各務同窓会報



岐阜大学

同で、南部アジア地域の6カ国（インド、バングラデシュ、タイ、インドネシア、ベトナム、中国）の12大学の参加の基、第3回農学系博士教育国際連携円卓会議及び農学系研究国際シンポジウム2014を開催いたしました。

中国広西大学とのダブルディグリープログラムを含め、各大学との教育連携が着実に進み始めています。また、応用生物科学部の学生の英会話能力向上のために、各務同窓会寄付金の支援を受けて昨年度から始めた学部独自の「TOEICスコアアップ特別講座」では、受講生が着実に英会話能力を向上させています。今後の学生の将来の活躍が楽しみです。

地域貢献に関しては、岐阜県と岐阜大学との獣医学教育研究連携協定の基で、岐阜県中央畜産保健衛生所が柳戸農場南の大学敷地内に移転することになり、平成28年度には施設が完成します。本施設が産業獣医学教育研究の拠点となると共に、岐阜県の畜産業への貢献の拠点となるものと期待しております。

また、岐阜大学の「地（知）の拠点整備事業（大学COE事業）」の採択を受け、地域との連携教育の一環として「地域ブランドと地域振興（通称…飛騨牛倶楽部）」を立ち上げ、地域産業との連携を図る教育にも取り組んでいます。今後、地域の中核拠点としての地方大学の位置を高めるために、各務同窓会との連携を一層強固にしていきたいと考えています。

大学としての最も重要な役割である教育に関しては「専門職業人の育成」を掲げて学部・大学院修士課程の教育改革に取り組んでいます。現在、大学院修士課程への進学率は50%を超えており、専門職業人教育の充実実喫緊の課題です。

昨今の科学者倫理が問われる事象が報道されていますが、大学院修士課程では2年前から必修科目として「科学者倫理」を開講し、「知財論」や「生物多様性条約およびカルタヘナ議定書」を開講しています。さらには学会発表を奨励する「アカデミックキャリア」や就業体験としての「インターンシップ実習」を単位化し、実践的な専門職業人教育を充実させています。高い倫理観と社会性を備え、高度な知識と技術を習得した本学部・研究科の卒業生の就職に対して、今後ともご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

このように、応用生物科学部は着実に教育研究の成果をあげております。

皆様からいただきました各務同窓会寄付金を含む様々なご支援に対しまして深く感謝申し上げますと共に、今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

最後に、岐阜大学初の登録品種である「フェアリーウィング」について紹介させていただきます。「フェアリーウィング」は観葉植物のスパティフィラムの染色体倍加操作によって作出された品種で、妖精の翼のような白い花を咲かせることから命名されました。テーブルの上で鑑賞できる植物として、現在附属柳戸農場の温室で生産され、販売されています。ご希望の方は附属岐阜フィールド科学教育研究センター事務室までお問い合わせ下さい（058-1293-12978）。

フェアリーウィング専用HP

<http://www1.gifu-u.ac.jp/~wing/index.html>



会長挨拶

水野 隼人（C大15）



全国各地で活躍の皆様には、ご健勝のこととお喜び申し上げます。今年は学部生210名、研究科90名の若い力が、新たに集まりました。全国69支部11,500名を超える支部・会員の皆様、新会員の受け入れにつき特段のご高配をお願い申し上げます。

今年は新制岐阜大学が、農学部（現応用生物科学部）と学芸学部（現教育学部）でもって発足65年目の年にあたります。そして、森学長から12代学長として森脇学長にバトンが渡されました。今年の大学創立記念日には、学長の方針として「大学のグローバル展開がきわめて大切だ。」と外国の大学との連携、外国人留学生の受け入れの大切さが語られました。（現在外国人留学生は約300名）まさしく大学は確実に変化に対応しています。

一方、同窓会支部での会員の高齢化はゆがめず、先の同窓会代表委員会（6月7日）で福島県支部と宮崎県支部では支部継続で課題を持っていることが報告されました。このことを、社会の変化といえどもそれまでですが、全国69支部活性化のご経験や取り組みをお寄せいただき、各支部での励みに出来ればと思います。

幹事会としても幹事長の任期を従来の1年から2年に規約変更をし、同窓会への期待に応えられるようにしました。

一つの事例ですが、ある支部も同じ課題を持ち、頭を悩ませていました。そこで、支部総会を大学内で行い、先生に大学の現状や研究室等をご案内いただきお話をうかがいました。自分たちの頃の研究室の状況とは様変わりの様子に驚いたり感心したりの日でした。実はそれ以上に驚いたのは、この10年岐阜大学黒野キャンパスを訪れた会員が半数（40数名のうち）もいなかったということです。

応用生物科学部（農学部）は私たちの心の支えです。一度それぞれの支部の節目に岐阜大学内で支部総会を開いてみては如何でしょうか。長良川での久しぶりの鵜飼と金華山を見ながらの河畔でのお話など…

最後になりましたが、3・11東日本大震災から3年半が過ぎようとしており復興はまだ道半ばと聞いています。同窓生の皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。あわせて全国の会員の皆様のご活躍をお祈り申し上げます。

幹事長挨拶

幹事長 清水 英良
（生産環境科学課程）

今年の夏は記録的な豪雨による洪水・土砂災害が頻発しましたが、各務同窓会員の皆様にはお元気でご活

躍のことと拝察致します。私は、今年度の各務同窓会幹事長を拝命致しました清水英良と申します。同窓会幹事を出身大学に拘らず、岐阜大学応用生物科学部全教員の中から抜擢することになって四年目になります。小生は岐阜大学出身ではございませんが、各務原時代を経験していることもあり推挙されたのではないかと思います。もとより浅学非才の身ではございますが、水野会長をはじめとする役員の皆様、幹事の諸先生、そして会員の皆様のお力添えにより、荒幡前幹事長の運営を引き継ぎながら、この一年間を務めさせていただきます。

本年の主な活動として、代表委員会の開催、同窓会報の発行、卒業式での学部三名と修士二名に対する同窓会長賞の授与と入学式における勧誘活動を行いました。同窓会の活性化に向けて取り組むべき重要課題は多々ありますが、まずは同窓会の強化を目指すため、従来一年任期であった幹事長の職を二年任期とすることと致しました。この案は六月七日の代表委員会で承認され、来年度から適用されます。また、四月七日の入学式当日に、同窓会未加入の新入生へ入会を勧誘するとともに、父兄懇談会の席に各幹事が赴いて広報活動を実施致しました。入学式後、約一ヶ月の間に数十名の方が入会され、勧誘の効果があつたものと推察されます。現在、未加入の在学生についての勧誘方法についても検討しているところです。

同窓会活動で重要なことは、会員の確保もさることながら、将来に向

けた資産運営です。現在、一般会計の歳入は新入会員の入会金と終身会費で賄っています。同窓会名簿は六年ごとに発行する予定で、次回の発行は平成三十年度になりますが、その財源は基本金特別会計を取り崩して運営しています。前回の名簿発行では約千三百万円を計上しており、このままで行くと、あと四〜五回発行すれば資産が底をつくこととなります。この件について、代表委員会の席で委員の方から、名簿を紙媒体にせず、電子データにして同窓会のホームページに掲載してはどうかとのご意見をいただきました。データ管理の大幅な変更になり、また皆様のご同意を得る必要もあり、一朝一夕には無理でしょうが、一考に値する提案だと思います。将来的には電子データで名簿を管理・配布し、紙媒体の配布については有料とすることなども視野に入れておく必要があるかと思っております。皆様のご意見を事務局の松井様宛にお伝え願えれば幸いかと存じます。

支部活動について、特筆すべきニュースがあります。本年の八月、石川県支部の方々が大学にお見えになり、各務原那加キャンパスから移植されたあすなろの木の傍らに、記念碑の石柱を打設されました。暑い中、遠方から訪れ作業されるお姿を見るにつけ、同窓会員の岐阜大学に対する熱い思い入れに敬服しております。

末筆になりましたが、会員皆様のお申上げます。ご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

平成二十六年度
各務同窓会代表委員会報告

平成二十六年度各務同窓会代表委員会は、六月七日（土）十一時三十分から、新緑の金華山（写真1）を仰ぐ、長良川河畔のホテルパーク（写真2）で開催されました。梅雨の始まりで、朝方は一雨のち曇って今にも降りそうでしたが、次第に青空が見えるようになりました。岐阜公園では、紫陽花の花をつけ始めておりました。各務学友の代表委員の方々、遠方より多く参集され、青春の地、岐阜にて、同窓会の行く末を話し合つて頂きました。北は北海道、南は高知から、三十六支部三十八名の代表委員の方々にご参加頂きました。これに役員及び幹事等二十一名を合わせて、五十九名の代表委員会となりました。

委員会を始めるにあたり、水野隼人会長からご挨拶を頂きました（写真3）。先日の岐阜大学の創立記念日で森脇新学長のお言葉「第三期以降は人が育つ場所を目指す」を紹介され、本同窓会としても大学の目指す理念の達成に全面的に協力する旨強調されました。そのため、幹事長の二年任





写真1 新緑の金華山



写真2 パークホテルより長良橋を望む

期も含めた同窓会執行部の強化を行うとの説明もありました。続いて、平成二十六年年度の幹事長（清水英良）、幹事（柳井徳磨、前澤重禮、梶川千賀子）ならびに監事（荒幡克己、今村彰宏）の紹介後、清水幹事長から就任の挨拶がありました。

さて、議事は、議長に岐阜県職各務同窓会支部代表委員の平工孝義氏を選出され、以降極めて円滑に議事を進行して頂きました。

第一号議案は、平成二十五年度事業・決算報告及び会計監査報告で、清水幹事長から事業報告が、次いで今村前会計担当幹事から決算報告がありました。更に、丸尾幸嗣前監事から会計および管財が適切に行われているとの会計監査報告があり、本議案は原案通り承認されました。

第二号議案は役員改選で、新たに

正村洋一郎氏、安藤敏行氏、川島光夫氏が副会長に選出され、各氏からご挨拶を頂戴しました。

第三号議案は、平成二十六年年度事業計画（案）で、前澤事業担当幹事から説明がありました。主要な事業として、

平成25年度支部総会開催状況

支部名	期日	出席者
東京E科会	25.04.24	松本康夫
愛知県各務会・愛知各務会	25.05.18	千家正照
愛知県高等学校教員	25.06.22	向井 譲
岐阜県高等学校	25.06.29	向井 譲 村瀬哲磨
石川県	25.07.06	石田秀治
岐阜	25.07.07	荒幡克己
長野北信	25.07.13	北川 均
愛知県職員林務関係同窓会	25.07.26	木村正信
愛知県職員農業関係各務同窓会	25.08.23	荒幡克己
江南	25.11.01	早川亨志
中濃	25.11.09	松本康夫
岐阜県職	26.02.01	会長 清水英良 松本康夫 木村正信
岐阜市役所	26.02.19	福井博一
東海農政水機構	26.03.05	清水英良
岐阜大学	26.03.14	会長 副会長

ては、会報第九十六号の発行を本年十一月中旬に予定、平成二十七年三月二十五日の卒業式における同窓会長表彰は、学部三名、大学院二名とすることの提案があり、また、事後報告として平成二十六年四月七日の入学式・保護者懇談会で同窓会入会者の勧誘活動を行ったことについての報告があり、原案は承認されました。

第四号議案は、平成二十六年年度予算（案）です。梶川会計担当幹事から説明があり、承認されました。会場から、同窓会名簿の冊子発行に代わり、インターネットを活用した情報発信で印刷経費を削減し、基本金特別会計繰越金の有効活用を検討できないかとの意見がありました。

その他として、三点の報告、提案がありました。第一は、清水幹事長より、「幹事長の二年任期化に伴う会則の一部改正」の提案があり、全員一致で了承されました。第二は、荒幡前幹事長より、寄附金の

（写真4）。初めに、第三期に入つた大学運営を取り巻く厳しい状況の紹介、その中で、評価に対応しつつ、新しい企画・南部アジアコンソーシアムによる国際貢献、知と地域の拠点形成などに挑戦しつつあるとの説明がなされました。また、岐阜大オリジナルの清酒を仕込んでいくので、楽しみにして下さいとのことでした。

最後に、同窓会へのま



写真3 水野隼人会長のご挨拶

（写真4）。初めに、第三期に入つた大学運営を取り巻く厳しい状況の紹介、その中で、評価に対応しつつ、新しい企画・南部アジアコンソーシアムによる国際貢献、知と地域の拠点形成などに挑戦しつつあるとの説明がなされました。また、岐阜大オリジナルの清酒を仕込んでいくので、楽しみにして下さいとのことでした。

最後に、同窓会へのま



写真4 福井名誉会長のご挨拶（左）・会場（右）

平成26年度岐阜大学各務同窓会役員

名誉会長	福井 博一	
会長	水野 隼人	(C大15)
副会長	矢井 治夫	(A大7)
	正村 洋一郎	(F大25)
	伏見 知彦	(C大18)
	北川 精一	(V大18)
	安藤 敏行	(E大19)
	小森 利八郎	(N大10)
相談役	川島 光夫	(P大7)
	杉山 幹夫	(M1)
	岩井 威道	(V大1)
	新藤 秀逸	(SP21)
	中村 孝雄	(N大7)
	後藤 悦男	(V大2)

平成26年度幹事長・幹事及び監事

幹事長	清水 英良	(生産環境科学課程)
幹事	(庶務・幹事代理) 柳井 徳磨	(共同獣医学科)
	(事業) 前澤 重禮	(応用生命科学課程)
	(会計) 梶川千賀子	(生産環境科学課程)
監事	荒幡 克己	(応用生命科学課程)
	今村 彰宏	(応用生命科学課程)

すますのご協力の依頼がなされ、結びとされました。

最後に、本同窓会に長年に亘り、副会長としてご貢献頂いた辻 和信氏、板津敏彦氏、清水正巳氏に会長より感謝を込めて記念品が贈呈され、各氏からご挨拶を頂きました。

続いて、昼食会を兼ねた交流会が開催され、岐阜大学校歌であり旧岐阜高等農林時代の伝統を継ぐ「我等多望の春にして」を参加者全員で斉唱し、母校の長き伝統を称えました。

今回の代表委員会は、とても和やかな雰囲気の中で充実した議事進行がなされ、同窓の絆を確かめることができました。同窓会事務局へのご質問・連絡等がありましたら、058-1293-3411（16時以降は留守番電話になります）、Email: ob-abs@gifu-u.ac.jp までよろしくお願致します。

平成25年度各務同窓会決算報告

自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日

1. 一般会計 2. 基本金特別会計 3. 資産現在高 4. 資産保管状況

1. 一般会計

(1) 歳入の部

(単位：円、小文字は内訳)

勘定項目	今年度予算	決算額	比較増△減額
1. 会 費	2,340,000	1,621,100	△ 718,900
入 会 金	2,220,000	1,580,000	△ 640,000
年 会 費	120,000	41,100	△ 78,900
2. 利 子	485	308	△ 177
3. 雑 収 入	540,000	454,550	△ 85,450
4. 基本金特別会計より繰り入れ	3,230,000	3,230,000	0
当期歳入合計(A)	6,110,485	5,305,958	△ 804,527
前年度繰越収支差額	147,313	147,313	0
歳入合計(B)	6,257,798	5,453,271	△ 804,527

(2) 歳出の部

勘定項目	今年度予算	決算額	比較増△減額
1. 事 務 費	2,100,000	1,816,093	△ 283,907
消 耗 品 費	10,000	3,628	△ 6,372
人 件 費	1,800,000	1,649,338	△ 150,662
通 信 費	30,000	25,762	△ 4,238
旅 費	36,000	36,000	0
終身会費返金	220,000	100,000	△ 120,000
雑 費	4,000	1,365	△ 2,635
2. 会 議 費	1,205,000	763,600	△ 441,400
代表委員会費	200,000	148,680	△ 51,320
代表委員会旅費	1,000,000	612,560	△ 387,440
役 員 会 費	5,000	2,360	△ 2,640
3. 事 業 費	2,250,000	2,169,421	△ 80,579
会報等印刷費	600,000	600,000	0
会 報 郵 送 費	900,000	831,190	△ 68,810
雑 費	700,000	707,231	7,231
ホームページ管理費	10,000	10,000	0
同窓会長賞費	40,000	21,000	△ 19,000
4. 名簿関係費	10,000	2,800	△ 7,200
発 送 費	10,000	2,800	△ 7,200
5. 慶 弔 費	50,000	23,919	△ 26,081
6. 支部総会派遣費	430,000	228,940	△ 201,060
7. 卒業・修了祝賀会 賛助費	150,000	150,000	0
8. 予 備 費	50,000	36,157	△ 13,843
当期歳出合計(C)	6,245,000	5,190,930	△ 1,054,070
当期収支差額(A)-(C)	△ 134,515	115,028	249,543
次期繰越収支差額(B)-(C)	12,798	262,341	249,543

2. 基本金特別会計

(1) 歳入の部

(単位：円、小文字は内訳)

勘定項目	今年度予算	決算額	比較増△減額
1. 終 身 会 費	4,480,000	3,160,000	△ 1,320,000
新 入 生 分	4,440,000	3,160,000	△ 1,280,000
卒 業 生 分	40,000	0	△ 40,000
2. 雑 収 入	0	0	0
3. 利 子	15,248	26,141	10,893
当期歳入合計(A)	4,495,248	3,186,141	△ 1,309,107
前年度繰越収支差額	59,784,934	59,784,934	0
歳入合計(B)	64,280,182	62,971,075	△ 1,309,107

(2) 歳出の部

勘定項目	今年度予算	決算額	比較増△減額
1. 一般会計への繰入	3,230,000	3,230,000	0
2. 振 込 料	5,000	0	△ 5,000
当期歳出合計(C)	3,235,000	3,230,000	△ 5,000
当期収支差額(A)-(C)	1,260,248	-43,859	△ 1,304,107
次期繰越収支差額(B)-(C)	61,045,182	59,741,075	△ 1,304,107

3. 資産現在高

(単位：円)

項 目	年度始現在高	現在高
1. 一般会計	147,313	262,341
2. 基本金特別会計	59,784,934	59,741,075
合 計	59,932,247	60,003,416

4. 資産保管状況

(単位：円)

項 目	一般会計	基本金会計
1. 現 金	78,085	
2. 普通預金	691	
大 垣 共 立 銀 行	144,792	3,317,884
十 六 銀 行		492,459
三井住友信託銀行		3,026,424
三菱UFJ信託銀行		
郵 便 局	38,773	
み ず ほ 銀 行		5,475,475
3. 定期定期貯金		9,604,069
大 垣 共 立 銀 行		21,824,764
十 六 銀 行		10,000,000
三井住友信託銀行		6,000,000
三菱UFJ信託銀行		
4. 振替貯金	0	0
合 計	262,341	59,741,075
総 計	60,003,416	

平成26年度各務同窓会予算

収支予算書 (平成26年4月1日～平成27年3月31日まで)

1. 一般会計

(1) 歳入の部

(単位：円、小文字は内訳)

勘定項目	予算額	前年度予算額	差 異
1. 会 費	2,330,000	2,340,000	△ 10,000
入 会 金	2,280,000	2,220,000	60,000
年 会 費	50,000	120,000	△ 70,000
2. 利 子	466	485	△ 19
3. 雑 収 入	520,000	540,000	△ 20,000
4. 基本金特別会計より繰り入れ	3,430,000	3,230,000	200,000
当期歳入合計(A)	6,280,466	6,110,485	169,981
前年度繰越収支差額	262,341	147,313	115,028
歳入合計(B)	6,542,807	6,257,798	285,009

(2) 歳出の部

勘定項目	予算額	前年度予算額	差 異
1. 事 務 費	1,990,000	2,100,000	△ 110,000
消 耗 品 費	10,000	10,000	0
人 件 費	1,750,000	1,800,000	△ 50,000
通 信 費	30,000	30,000	0
旅 費	36,000	36,000	0
終身会費返金	160,000	220,000	△ 60,000
雑 費	4,000	4,000	0
2. 会 議 費	1,004,000	1,205,000	△ 201,000
代表委員会費	200,000	200,000	0
代表委員会旅費	800,000	1,000,000	△ 200,000
役 員 会 費	4,000	5,000	△ 1,000
3. 事 業 費	2,280,000	2,250,000	30,000
会報等印刷費	600,000	600,000	0
会 報 郵 送 費	900,000	900,000	0
雑 費	730,000	700,000	30,000
ホームページ管理費	10,000	10,000	0
同窓会長賞費	40,000	40,000	0
4. 名簿関係費	7,500	10,000	△ 2,500
発 送 費	7,500	10,000	△ 2,500
5. 慶 弔 費	50,000	50,000	0
6. 支部総会派遣費	450,000	430,000	20,000
7. 卒業・修了祝賀会 賛助費	150,000	150,000	0
8. 予 備 費	70,000	50,000	20,000
当期歳出合計(C)	6,001,500	6,245,000	△ 243,500
当期収支差額(A)-(C)	278,966	△ 134,515	413,481
次期繰越収支差額(B)-(C)	541,307	12,798	528,509

2. 基本金特別会計

(1) 歳入の部

(単位：円、小文字は内訳)

勘定項目	予算額	前年度予算額	差 異
1. 終 身 会 費	4,600,000	4,480,000	120,000
新 入 生 分	4,560,000	4,440,000	120,000
卒 業 生 分	40,000	40,000	0
2. 雑 収 入	0	0	0
3. 利 子	25,736	15,248	10,488
当期歳入合計(A)	4,625,736	4,495,248	130,488
前年度繰越収支差額	59,741,075	59,784,934	△ 43,859
歳入合計(B)	64,366,811	64,280,182	86,629

(2) 歳出の部

勘定項目	予算額	前年度予算額	差 異
1. 一般会計への繰入	3,430,000	3,230,000	200,000
2. 振 込 料	1,000	5,000	△ 4,000
当期歳出合計(C)	3,431,000	3,235,000	196,000
当期収支差額(A)-(C)	1,194,736	1,260,248	△ 65,512
次期繰越収支差額(B)-(C)	60,935,811	61,045,182	△ 109,371

学園だより

課程等の近況

◆応用生命科学課程

同窓生の皆様には、益々ご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。

当課程は本年3月に学部卒業生88名を送り出し、そのうちの45名が大学院修士課程に進学しました。修士課程修了者は48名で、そのうち2名が博士課程に進みました。一方、4月には、本課程に85名の新生入生および5名の3年次編入学生を迎え入れました。また、大学院修士課程には51名が入学しております。

教員の動向としましては、本年3月1日に西津貴久准教授が教授に昇任され、同7月1日には食品生命科学コースに勝野那嘉子氏が(株)真誠より助教として赴任されました。また、鈴木文昭教授は、理事(国際・広報担当)、副学長に就任されました。山内 亮教授と高見澤一裕教授は引き続きそれぞれ副学部長(総務・財務担当)、研究推進・社会連携機構の副機構長としてご活躍です。光永 徹教授は大学委員会委員長、上野義仁教授は入学試験委員長、石田秀治教授は大規模改修対策WG委員長として学部貢献されています。

なお、高見澤一裕教授は、ポラード国土衛生工学会より感謝のオペルニクス像の授与を受けられ、高見澤教授のグループ(共著者3名含む)は、廃棄物資源循環学会論文賞を、北口公司助教は、日本畜産学会奨励賞を受賞されました。なお、高見澤一裕教授と後藤清和教授は本年度末をもって定年退職されます。

学生の表彰に関しましては、平成25年度卒業・修了時に、小林由樹君(学部長表彰)、磯貝 渚君(同窓会長表彰)、廣瀬紗弓君(学長表彰・大学院)、田中裕真君(研究科長表彰)、田村直希君(同窓会長表彰・大学院)が表彰を受けました。

私共課程教員は丸となって、学生の教育・研究に邁進しておりますが、同窓生各位におかれまして、大学に求められております「産官学共同」、「地域貢献」の推進並びに卒業・修了生の就職につきましても、今後ともご支援賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様方のご健勝とご活躍を祈念いたします。

(早川享志)

◆生産環境科学課程

生産環境科学課程の近況をご報告申し上げます。本年3月、本課程から88名が卒業し、内35名(他の大学院を含む)が修士課程へ進学いたしました。また本研究科第5期の修了生として生物環境科学専攻から42名を送り出し、内3名が博士課程へ進学いたしました。

3月の卒業・修了祝賀会においては、卒業生では榎本拓央君が学長表彰、河辺穂奈美さんが学部長表彰、平尾美樹さんが同窓会長表彰を受け、修了生では柴田光浩君が研究科長表彰、安佐伊美夏さんが同窓会長表彰を受けました。

本年4月には、本課程に新入学生89名(3年生編入学生6名を含む)、研究科専攻に44名を迎えました。

次ぎに各コースの動向についてお知らせいたします。

応用植物科学コースは13名の教員からなり、コース長は小山博之教授です。管理運営面では福井博一教授が学部長・研究科長として学部および大学院の運営に尽力されております。また田中逸夫教授は岐阜フィールド科学教育研究センター長の任にあたっています。研究活動の成果としては修士課程の西岡友樹君が百町満朗教授、清水将文准教授の指導のもと、日本植物病理学会平成26年度大会において学生優秀発表賞ポスター賞

を、福井教授の研究によって誕生した岐阜大ブランド観葉植物スパティフィラムの新品種「フェアリーウイング」が日本フラワー・オブ・ザ・イヤ2013プリーディング特別賞を受賞されました。百町教授は本年度末をもって定年退職される予定ですが、長年にわたり植物病理学に関する教育・研究に取り組み多くの功績を残されました。管理運営面では専攻長として連合農学研究科の運営にご尽力されたほか課程長や大学院委員長としても活躍されました。

応用動物科学コースは10名の教員からなり、コース長は土井守教授です。松村秀一先生(動物分子遺伝学)は教授に昇進されました。研究活動の成果として、日本家禽学会2013年秋季大会において修士課程の柴田光浩君が岩澤淳教授の指導のもと日本家禽学会優秀発表賞を受賞されました。

環境生態科学コースは17名の教員からなり、コース長は川窪伸光教授です。川窪先生(進化生態学)は教授に昇格されました。管理運営面では向井讓教授が副学部長(企画・評価担当)として学部の運営に、また千家正照教授が連合農学研究科長として同研究科の運営に尽力されています。研究活動の成果として第29回個体群生態学会大会において修士課程の青島正昂君が土田浩治教授の指導のもとポスター賞を、第125回日本

森林学会大会において蘇彰宏君が向井讓教授の指導のもと学生ポスター賞を受賞されました。なお木村正信教授、松本康夫教授は本年度末をもって定年退職される予定です。松本教授は長年にわたり農村計画学に関する教育・研究に取り組み多くの功績を残されました。また専攻長として連合農学研究科の運営にご尽力されたほか学長や大学院委員長としても活躍されました。木村教授は長年にわたり砂防緑化工学の教育・研究に取り組み多くの功績を残されました。管理運営面では入試委員や教学委員など多数の委員を歴任され多大な貢献をいただきました。

末筆ながら、同窓生各位のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

(宮川修二)

◆共同獣医学科

各務同窓会の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。共同獣医学科の現況をお知らせいたします。平成25年4月に発足した共同獣医学科は2年目に入り、今年度は68人(岐阜大31人、鳥取大37人)の新入生を迎えました。遠隔システムを用いたメディア授業や教員が移動しての対面授業ならびに学生が移動して受講する授業の開講数が増え、共同教育は一步前進しました。また、獣医

各務同窓会報

学共用試験トライアルの実施、新制度での参加型臨床実習の準備、第三者による教育評価制度の検討等を進めています。獣医学教育の改善・充実に向けてさらに努力していきたいと考えています。

獣医師国家試験では、現役生34名中31名が合格し、合格率は全国平均並みでした。既卒は3名が合格です。今年度は全員合格に向けて頑張つてほしいと思います。この春の卒業生の進路は小動物診療(26・5%)が例年よりも少なく公務員(26・5%)と同数で、ついで民間企業等(14・7%)、大学院進学(11・8%)となりました。平成25年度の優秀学生は、獣医師会長賞が高橋奈津美さん、学部長表彰が天下(旧姓相木)かよさん、同窓会長表彰が辻遼子さんでした。また今年度の在学生学長表彰は4年生の新井慧さんです。

教員につきましては、平成25年10月に産業動物臨床学研究室の大場恵典准教授が教授に昇任し、平成26年4月に動物病院専任の柴田早苗助教が准教授に昇任しました。管理運営面では福士秀人教授が理事・副学長(学術研究・情報担当)に就任され、大学の運営に尽力されています。

共同獣医学科がさらなる発展・充実を図るために、教員一同努力いたします。皆様方のご理解、ご協力とご支援をよろしくお願い申し上げます。詳細は共同獣医学科

ホームページのニュースレター第7号をご覧ください。末筆ながら、同窓生の皆様のご健康とご活躍をお祈りいたします。

(鬼頭克也)

◆◆連合農学研究科

各務同窓会の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。本研究科は平成3年度に発足して以来24周年を迎えることになりました。平成25年度の学位授与者数は課程博士25名(内、外国人留学生11名)、論文博士4名(内、外国人留学生0名)でした。学位授与者の総数は、課程博士が631名(内、外国人留学生312名)、論文博士が141名(内、外国人18名)になりました。本年度の入学者は、定員20名に対して18名(内、外国人留学生9名)で、これに秋季入学の学生も加わります。現在、本研究科には、総数79名の学生が在籍し、内外国人留学生が38名(中国、インドネシア、タイ、バングラデシュ他、計10か国)です。本年度から入試制度が大きく変わり、平成27年度入学生から通常の一般入試に加えて、推薦入試や外国人特別入試という新しい選抜方法が発足しました。とくに、南部アジア地域の教育連携コンソーシアム加盟12大学(ダッカ大学、チュラロンコ

ン大学、カセサート大学、ハノイ工科大学、インド工科大学、アツサム大学、ガジヤマダ大学、ボゴール農科大学、アンダラス大学、スブラス・マレット大学、広西大学、ランボン大学)の修士修了生は試験を随時受けることができるようになり、優秀な留学生の確保に努めています。

平成24年度から、博士論文研究の進捗状況を半年ごとの中間発表で確認することによって、より緻密な研究指導を行い、学生たちも標準修業年限の3年での学位授与を目指してベストを尽くしています。学位授与の機会も6月、9月、12月、3月の年4回に増え、過年度生の数も減少する傾向にあります。

教育面では、本研究科での英語教育の充実を図るために、スリランタ特任准教授による「科学英語ライティング」や、コンソーシアム加盟12大学等から招聘した教員等による英語の講義として「農学特別講義Ⅲ」を新しく開講します。

学位取得後のキャリアパス支援は経験豊富な杉本勝之客員教授(キャリアパスコーディネーター)が、平成23年8月から引き続き対応しています。とくに、東海地域の生物・バイオテクノロジ関係企業5社からなるインダストリー部会と連携しながら、国内インタシンシップを通して、実践的な研究能力を有する学生教育に努めて

います。

本年度から3年間、本研究科の国際化に向けての提案が文科省によって採択され、特別経費の予算を獲得しました。この事業の中で、コンソーシアム加盟12大学との教育・研究の連携をより一層深め、教員と学生の交流を促進します。具体的には、光永徹教授が中心となつて、コンソーシアム加盟大学とのデュアルPhDディグリープログラムとの締結やサンドイッチ・プログラムの実施、本研究科学生の海外インターシンシップ、コンソーシアム加盟大学内に共同実験室を設置する、など様々な取り組みを計画しています。

さらに、森誠客員教授(静岡大学名誉教授)をChief Editorとして配置することによって、本研究科から発信した電子ジャーナル(Reviews in Agricultural Science: <http://www.agscjp.ras>)をより充実させ、南部アジア地域における教育連携コンソーシアムのプラットフォームとして、世界の農学系研究と教育の発展に貢献していくものと期待されています。

12月には海外連携コーディネーターの加藤晴也客員教授が中心となつて、インドネシアのボゴールで現地研究交流会を開催し、現地の連携大学と企業、本研究科とインダストリー部会参加企業の研究交流を実施します。

これら一連の活動は、本研究

科ホームページ(<http://www1.gifu-u.ac.jp/~rendai/>)をご覧ください。

最後に同窓生の皆様のご健康とご活躍をお祈りいたします。

(千家正昭)

◆◆連合獣医学研究科

各務同窓会の皆さまには、ご健勝のことお慶び申し上げます。さて、昨年度の学位授与者数は、課程博士31名、論文博士9名であり、これまでの学位授与者の総計は、課程博士424名、論文博士130名です。この5年間ほどの本研究科の特徴として、4年の在学期間を3年あるいは3年半で博士課程を修了する短縮学生が多く見受けられます。在学期間の短縮の条件には、30単位以上の単位の修得と共に、高いレベルの学術雑誌への論文の受理が必要となっております。短縮学生の増加は、他研究科でも顕著であり、レベルの高い論文を書くと共に、課程博士の期間を一つの踏み台と位置付けステップアップする姿勢が見受けられており、研究科としても積極的に支援したいと考えております。

平成2年に設立した本研究科も、本年度で25年目の節目を迎えます。国立大学が法人化して10年を経過し、現在、各国立大学の特徴や機能強化が強く求められてお

各務同窓会報

り、学部教育、大学院教育共に改革の時期を迎えております。3年前からスタートした共同獣医学科（共同獣医学部や共同獣医学課程）も他大学では3年次を迎えており、将来の大学院進学に向けた連合獣医学研究科のあり方について検討を余儀なくされております。これまで25年間の連合獣医学研究科の実績と貢献は揺るがせないものでありますが、各大学の事情を考慮し、より充実した大学院教育へと進化しながら実施体制の構築を進める予定でおります。今後とも、連合獣医学研究科にご支援を賜りますようお願い申し上げます。

（石黒直隆）

◆附属岐阜フィールド科学
教育研究センター

各務同窓会員のみなさまにはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

本年度も実習・講義、公開講座体験・見学対応などに活発な活動が続けております。新たな取り組みとして、本年三月末に柳戸農場に岐阜大学ブランド品であるスパティフィラム栽培用大型プラスチック温室（百坪）を新築し、本格的な生産販売に向けて動き出しました。また、演習林では県からの補助金事業である森林経

営計画事業（林道新設および森林管理の外部委託）を四月から開始しています。人事面では、育児等で長期休業中であつた小野技術職員が六月末を持って退職され、その後任として七月一日より矢野倫子臨時技術職員が着任しました。また、長年にわたり演習林業務を担われてきた谷口昇さんが退職され、再任用中であつた青木達雄さんが三月末で任期を終え四月からはパート職員として業務を支えておられます。さらに、昨年十一月に岐阜市立岐阜女子短期大学との連携協定を締結しました。その他、柳戸農場の畜舎建物の全面的な改修と設備要求に向けた二十七年年度概算要求などを昨年に引き続き申請しました。

このように関係者一丸となつてセンターの発展に向けて努力しておりますので、今後とも同窓の皆様方のご協力ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

（田中逸夫）

◆動物病院

各務同窓会の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

本年度より共同獣医学科の前田貞俊が動物病院長に就任しました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

診療棟の増築と放射線治療器の導入からこの4月で丸4年、MRIが導入されてからは2年が経過しました。この3月からは16列のX線CTが設置され、従来から使用しておりますCTとあわせて常時2台での検査態勢が整いました。ようやく、我々の病院も設備面において他大学の病院と肩を並べられるぐらになったのではないかと思います。

現在のスタッフですが、軟部外科を担当されておりました鷲巣誠先生が定年退職されましたので、共同獣医学科の臨床教員15名、病院雇用の任期制助教2名、非常勤獣医師7名および動物看護師8名および事務職員4名の体制で診療業務を行っております。すべての診療科をカバーするには教員不足ですから、常勤教員で対応できない場面では、開業医の先生を中心とする10名の客員教授または客員准教授の先生にご協力を頂いております。さらなる臨床教員の増員を図りたいところなのですが、大学を取り巻く環境は年々厳しくなる一方で、国の予算による新たな教員採用はほぼ不可能な状況です。この点に関しては、国の予算に依存しない形で充実化を図るための戦略が必要と感じております。

この戦略を立てていく上で、岐阜県のみならず愛知県および三重県を中心とする強固な地域獣医療ネットワークの強化が必要不可欠と考えています。今後とも同窓の皆様方のご協力とご鞭撻を賜りながら、地域に根ざした活動を行っていきたいと考えております。

（前田貞俊）

◆野生動物管理学
研究センター

各務原同窓会員の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

まずは、岐阜県からの寄附により運営されております「鳥獣対策研究部門」についてのご報告です。従来から行ってきた捕獲個体のデータやサンプル収集体制の整備、狩猟実態のアンケート調査、シカによる森林被害モニタリング調査等を継続すると共に、昨年度からは被害対策支援や防除手法の検証・指導、効率的な捕獲方法の開発などのテーマを新たに立ち上げ、精力的な取り組みが続けております。

また、昨年度は岐阜県から「野生動物と人との共生推進事業」を受託し、「これからの狩猟と管理捕獲を考える」、「ニホンザルの被害管理と個体群管理」、「野生動物と人との共存を目指した教育を考える」など、3回のシンポジウムやセミナーを開催いたしました。

加えて、岐阜県教員免許状更新講習の講義を担当したほか、野生動物管理学研究センターの提供授

業（野生動物管理学入門）を「ネットワーク大学コンソーシアム岐阜」の社会人公開授業として開講いたしました。これらは、当センターの重要な機能である教育・普及啓発に直結する事業でもあります。

今年度も、引き続き各事業を展開する方針であり、すでに6月22日には「野生動物捕獲の手法論と体制論」と題したシンポジウムを開催しました。このシンポジウムには、13都道府県の職員も参加され、本センターの全国的な注目度の高さを実感することができました。北海道大学人獣共通感染症リサーチセンターとの「特定共同研究」も継続採択され、野生動物との関連が深いオウム病クラミジア感染症などの研究が続けております。

これらの体制のもと、センターの教職員一同、岐阜県のみならず日本全国を視野に入れた活動を進めて行く所存でおります。同窓の皆様には引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますよう、改めてお願い申し上げます。

（鈴木正嗣）

◆比較がんセンター

各務同窓会会員の皆様には比較がんセンターの近況をご報告申し上げます。

本センターは設立から5年目になりますが、学内外の研究機関と連携して、動物とヒトのがんの克服を目的として活動を進めております。

研究面では、マイクロRNAの治療応用として、犬口腔内メラノーマおよび犬とヒトの血管肉腫について、検討を進めております。

また、平成25年度より岐阜県獣医師会と共同で「岐阜県犬腫瘍登録制度」を開始しましたが、今年度中には全国で初めての犬腫瘍登録データをまとめて公表する予定です。本制度は今年度も引き続き実施しております。さらに、学内活性化経費の補助により、学部の壁を越えた学内研究グループを形成して、植物成分によるがん予防の実用化研究を開始いたしました。

教育面では、卒後教育の一環として腫瘍診療に関する各種講習会、恒例となっております比較腫瘍学セミナーおよび比較腫瘍学シンポジウムを実施しております。

なお、個々の活動状況については、本センターのホームページURL: <http://www1.gifu-u.ac.jp/~cccl/>をご覧ください。今後ともご指導とご支援の程お願い申し上げます。

(丸尾幸嗣)

共同獣医学教育開発 推進センター

鳥取大学との間で共同獣医学科が設置され、2年目を迎えました。

いよいよ、両大学で同一のカリキュラム・教育内容による本格的な専門教育に入ろうとしています。

両大学間での教育を円滑に行うため、昨年度までに、通常の教室4機に加え卒論発表会が開催可能な大教室に1機、病理学実習室に1機、計6つの遠隔講義システムが設置されました。また、8月18

22日には、岐阜大学において、鳥取大学と岐阜大学の2年生がともに学ぶ「大学教育導入演習Ⅱ」が「人と動物の共生、最先端獣医療、獣医学の多様性と社会貢献」をテーマに実施されました。その中で、岐阜で悠久の歴史を誇る「鵜飼い」を話題とし、宮内庁式部職鵜匠・山下哲司さん(第14回P科卒業)にご講演をお願いしました。また、高度獣医医療の学修として、JRA中京競馬場場長・横田貞夫さん(第30回V科卒業)のご尽力により、JRA栗東トレーニングセンターの見学が叶いました。この紙面をお借りし、深く感謝申し上げます。共同教育につきましては、課題山積の状況です。今後とも、皆様のご支援を賜りたく、よろしくお願いいたします。

(杉山 誠)

新任教員のあいさつ



勝野 那嘉子

平成26年7月1日付で応用生命科学課程食品生命科学コースに助教として着任しました勝野那嘉子と申します。私は岐阜大学農学部生物資源利用学科を卒業した後、愛知県にありますが(株)真誠というゴマ関連製品を加工する企業に13年間在籍し、その間に岐阜大学大学院連合農学研究科に在籍して学位を取得しました。再び母校である岐阜大学に戻ることができ大変嬉しく思っております。

企業ではゴマを対象とした加工工程の効率化と加工品の高付価値化を目指して実際の加工工程で生じる問題の原因究明や新規加工方法の研究開発を行ってまいりました。

食品は加工中に生化学的な反応や化学反応、物理的な変化など様々な変化が生じ、これらはおいしさや保存性などの品質に影響を与えます。食品の加工や保存中に生じる変化や成分間の相互作用を分子レベルで解析し、品質の制御や改善につながるような研究を行いたいと考えております。また、実際の加工現場に近い場所での研究を進めてきた経験を生かし、研究成果を食品加工業に応用することを見据えながら研究を進めてまいりたいと思っております。

今まで多くの先生方にお世話になり、今後はその恩を返していただけるよう母校である岐阜大学への思い入れと共に教育・研究活動に進める所存でございます。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

教員・旧教員の受賞

北口 公司 助教授

日本畜産学会第118回大会

日本畜産学会奨励賞

平成26年3月27日

高見澤一裕 教授

中村 浩平 准教授

平成26年度春の研究発表会

廃棄物資源循環学会論文賞

平成26年5月29日

杉山 誠 教授

日本学術振興会

平成25年度特別研究員等

審査会専門委員(書面担当)表彰

平成26年7月31日

教員の異動

定年退職

H26. 3. 31

附属動物病院 教授
鷲 巢 誠

昇 任

H25.10. 1

生物環境科学講座 生態環境学 教授
川 窪 伸 光

生物環境科学講座 生態環境学 准教授から

H25.10. 1

共同獣医学科 臨床獣医学 教授
大 場 恵 典

共同獣医学科 臨床獣医学 准教授から

H26. 1. 1

生物生産科学講座 応用動物科学 教授
松 村 秀 一

生物生産科学講座 応用動物科学 准教授から

H26. 3. 1

生物生産科学講座 生物生産流通学 教授
西 津 貴 久

生物環境科学講座 生物生産流通学 准教授から

H26. 4. 1

附属動物病院 准教授
柴 田 早 苗

附属動物病院 助教から

採 用

H26. 7. 1

生物生産科学講座 生物生産流通学 助教
勝 野 那嘉子

退職記念事業終了の報告

鷺巣誠教授退職記念

事業報告

応用生物科学部附属動物病院専任教員の鷺巣誠教授は平成26年3月31日をもって定年退職されました。先生は平成21年に岐阜大学応用生物科学部教授として転任され、講義・実習に加えて動物病院での診療業務にあたられました。鷺巣先生は肝胆道系疾患を中心とする軟部外科が専門であり、数多くの症例を担当されました。

鷺巣先生の退職記念事業として、平成26年1月24日（金）に応用生

物科学部101多目的ホールにて、「獣医統合医療を模索して」と題する最終講義が行われました。現職の教員や学生はもとより、遠方からも卒業生が駆けつけ、盛大な最終講義が行われました。その後、第1会議室にて茶話会が催され、鷺巣先生を囲んで昔話に花が咲きました。ご参加いただきました皆様方に、心からお礼申し上げます。

現在は東京都西東京市にありまして、アニマルウェルネスセンターにて活躍されております。鷺巣先生の今後の益々のご発展をお祈りいたします。

退職予定者のあいさつ

定年退職のご挨拶

後藤 清和



平成27年3月に定年退職を迎えるにあたってご挨拶申し上げます。私は、平成元年4月1日に助教として岐阜大学に赴任しました。当時は学部改組の年次進行中で、農

学部農業工学科作業機械学講座と生物生産システム学科生物生産制御学（大）講座が併存しておりました。そして、平成16年4月には大学の法人化とともに学部名称が、「農学部」から「応用生物科学部」に改称され、私は、「食品生命科学課程（現応用生命科学課程）食品科学コース（現食品生命科学コース）」に所属させて頂きました。定年退職時まで26年という長い年月

を大過なく終えさせて頂けるのは、数多くの教職員の皆様方および優秀な学生諸君によるご助力、ご協力があったことであり、心より感謝いたしております。作業機械学講座および生物生産制御学講座農業プロセス工学研究室におきましては、三輪精博教授のご指導の下、多くの卒業生が社会に巣立ちました。また、応用生物科学部に改組されて平成20年度からは西津貴久准教授（現教授）と協力して、食品加工工学研究室としての教育研究に励んでまいりました。また、本年度7月に、(株)真誠より素晴らしい人材である勝野那嘉子助教を迎えることができ、研究室としてのさらなる充実を確信しております。

私は、前任地の京都大学農学部の助手時代より、米の収穫後調製加工技術および関連する処理施設の合理化に関する研究を行ってまいりました。米の収穫後技術には、乾燥から始まり、籾すり、精米、各種選別、貯蔵および品質保持が含まれます。岐阜大学に赴任後も主として米に関する研究を続けさせて頂きました。研究対象となる材料を確保するために、付属農場（現附属岐阜フィールド科学研究教育センター）の技術職員の方々にまずいぶんお世話になりました。研究結果は、多少なりとも関係する分野で役立つものと思っております。

学生諸君との生活において、楽しかったこと、辛かったこと、多くの思い出があります。実験用の米が余った時は、ご飯を炊いて皆でワイワイ言いながら食べたこと

もしばしばありました。まだ若かりし頃は、私も元気で、特に卒論の締め切りが近い時期には、幾晩も楽しく徹夜をしたものです。文章を修正する際の私の字があまりに達筆すぎて、読み取ることができず、学生からお叱りを受けることもよくありました。赴任当時に接した学生諸君は、今や50歳前後となり、社会的にも重要な地位に就いておられるものと思います。私などが退職を迎えるのは当然のことだと納得しているところです。

最後になりましたが、応用生物科学部ならびに各務同窓会のますますの発展、また、同窓の皆様のご多幸、ご健勝を祈念いたしまして、退職の挨拶とさせて頂きます。長きにわたりありがとうございました。

定年を迎えて思い出すこと

高見澤 一裕



平成元年4月1日、臨時増募助教の一人として、生物資源利用学科生物機能工学講座に着任しました。

当時はまだ旧体制との併存の時期で、農芸化学科応用微生物学講座の席でもありました。大阪市立環境科学研究所に15年間勤務し、その後、転職してきたわけですが、都会の真ん中にある研究所と比べて、なんとどのかなキャンパスであるのか、春先に窓を閉め忘れて帰ると翌朝にはコズメズメが机の上で飛び跳ねておりました。周回道路でキジの親子連れにもよく出会いました。

前職での問題解決型の研究では手詰まり感が強く、大学で微生物を利用した環境改善の基礎研究を学生と一緒にしようという目的で移ってきましたが、カリキュラム作成方法・学生指導方法に始まる大学の考え方、運営方法、意思決定システムがよくわからず、さらに、なぜ学科会議や教授会が4時間以上もかかるのか、理解できませんでした。様子の分かり始めた3年後にやっと本採用された感に浸ったことを思い出します。

元々廃棄物埋立地を研究対象としていたため、静脈から全体を俯瞰して研究を進めていました。さらに、一昔前の言葉でいえばシステム工学的研究も行っておりまして。そこで、バイオテクノロジーの環境改善及び環境創造への利用という大きな目的で研究を始めました。幸い、旧応用微生物学講座では微生物機能の環境への応用という考え方が昭和45年頃より始

められておりました。そこで、未
利用資源の農産廃棄物の有効利用
特にキシリトールへの変換をテー
マとしました。バイオリファイナ
リーの走りの研究です。また、塩
素化エチレンによる地下水汚染と
その微生物修復、後にバイオリメ
ディエーションといわれる研究を
始めました。これら、ふたつのプ
ロジェクトを掲げて学生さんたち
と一緒に学びました。そして、ラ
イバルを作るという気持ちで教育
に打ち込みました。

連合農学研究科長や産官学融合
本部長の時代は、公私とも非常に
多忙で緊張とストレスの日々を送
りましたが、皆様の温かい励まし
とご支援に支えられて頑張ること
ができました。微力でしたが、大
学や学部的发展に寄与できたと自
負しております。本当にありがと
うございました。応用生物科学部
と各務同窓会のますますのご発展
と同窓の皆様のご健勝をお祈り申
し上げます。

退職にあたって

百町 満朗



私は昭和63年
3月に旧農学部農
学科植物病学講座
助教授として着任
し、それ以来27年間、岐阜大学に

お世話になりました。着任時は丁
度学部内改組を終える時期に重な
り、赴任して1カ月後の4月から
は農学科が生物資源生産学科と名
称を変えました。また、在任中に
再度大きな改組の嵐に見舞われ、
平成16年には農学部が応用生物科
学部に、生物資源生産学科は生産
環境科学課程と変わりました。こ
うして振り返ると、赴任以来、常
に変革の中に身を置いてきたと実
感しています。

私は「土壌病原菌の生理・生態」
と「有用微生物を用いた生物防除」
を主要な研究テーマとして取り上
げてきました。退職を直前にして
も目標の達成には未だ程遠く、道
半ばといった感を拭えませんが、
先生方、同僚諸兄、学生諸君等に
恵まれ、曲がりなりにも最後まで
続けられ、この分野の研究の発展
に微力ながら貢献できたことは大
変有り難く、感謝しております。

研究室からは21名（日本人学生4
名、留学生17名）が博士号を取得
しました。とくに14力国もの国々
から多くの研究者、留学生および
研究生が長期滞在したことにより、
研究室に常に異国の雰囲気漂い、
エキゾチックな賑わいに溢れてい
たことが懐かしい想い出となつて
います。留学生の中には出世して
副学長になった者や、アメリカに
渡り州政府の役人となつてプール
付きのマイホームを建てるなどア
メリカンドリームを叶えた者も出

ており、喜ばしく思います。今、
振り返ると岐阜大学での27年の歳
月は本当にあつたという間に忙しく
過ぎてしまったように感じます。
リベラルな環境で、活気ある若い
人達と一緒に楽しく過ごせたこと
に満足しています。今一度、有り
難うございました。

最後になりましたが、応用生物
科学部ならびに各務同窓会の一層
のご発展と皆様のご健勝を祈念申
し上げ、退職の挨拶とさせていただきます。

退職に際して

木村 正信



昭和五十一年
（一九七六）の春、
名鉄各務原線の岐
阜大学前駅に降り

立ちました。岐阜は生まれて初め
て訪れる地で、境川堤と那加キャ
ンパスの満開の桜が迎えてくれ
たことを憶えています。私が所属
したのは「森林生産学」という名
の造林学と砂防工学の複合講座で、
木造校舎の農学部本館二階の片隅
に居室を与えられました。

線路沿いの苗畑での育苗、演習
林での枝打ち、地拵え、堰堤設計、
林道の曲線設置など実学に徹した
演習内容に驚き、学生達と一緒に
一から学ぶより他ありませんでし

た。五六豪雪の際には全ての講義
を中断し、林学科の学生・院生を
総動員して演習林で倒れたスギや
ヒノキの根起こしをしたことが印
象に残っています。九二八ガーデ
ンでの平板測量、学科対抗のソフ
トボール大会、境川の花見など、
各務原には数々の懐かしい思い出
があります。

校舎が柳戸に移転した後、学科
の名称のみならず、学部名まで変
わってしまいました。それに伴い、
実務的な内容の講義と実習は姿を
消し、教育目標も様変わりしまし
た。いま、若者の間で林業に人気
が出てきて、若い世代の就労者も
増えていると聞きます。森林は国
民の財産であり、次の世代に引き
継ぐ責務のあることに意気を感じ
るのでしようか。本学部で林業の
技術と理論を学ぶ機会が以前に比
べて少なくなったことに、一抹の
寂しさを感じます。

これまで、扇状地砂防工法の特
徴について、土石流に対する低ダ
ム群の効果判定、廃材チップを生
育基盤材に活用した緑化工法の開
発など、主にフィールド調査に基
づいた研究をおこない、専攻生と
一緒に山野を駆け巡りました。そ
して、約一四〇名の卒業生が社会
に巣立ち、その多くは国土保全と
緑化再生の分野で活躍しています。
これら卒業生諸君と同僚諸兄に支
えられて今日まで大過なく勤める
ことができ、心から感謝いたして

おります。

最後になりましたが、岐阜大学
応用生物科学部ならびに各務同窓
会の更なるご発展を心から祈念申
し上げます。長い間、本当に有難
うございました。

定年退職にあたって

松本 康夫



各務原市那加の
ロマン漂う木造校
舎に農業工学科助
手として赴任した

のは昭和四九（一九七四）年五月
であつた。学科の諸先生は、散り
散りに居室を持っていた。学科と
して空間的なまとまりはなかった
が、なぜかわくわくするような不
思議な一体感があつた。学生とも
よく遊んだ。部屋から外に出ると、
ほとんどが平屋か二階建ての建物
だったから、他学科の先生にもよ
く出会った。あれから四〇年、小
生の人生は、ほぼ一〇年単位でめ
まぐるしく変わった。

岐阜大学の統合移転。この時の
学科間の空間争奪は、すさまじかつ
た。農業工学科農業土木系講座は、
水没害を厭わないA棟一階に落ち
着いた。

農学部の学科改組。生物生産シ
ステム学科への改組にあたって、
農村計画研究室を起ち上げた。

この時から、「土地改良」という言葉が現場にびつたりでよく使うようになった。おかげで農山村の古老に、いろんなことを教えてもらった。

最後に応用生物科学部への改組。土地改良は、すでに農業農村工学に変わっていた。都市の周りでは、サラリーマンが増え農地転用ばかりが目立った。日曜百姓も段々と歳をとって農作業から離れる。農山村集落からは若い人が出て行き、年寄りばかりが頑張っているが、機械を使っても農作業はきついから、体が動かなくなると耕作を断念せざるをえない。

こうして、二三〇〇年続いた水田稲作農耕社会が衰退し、都市型食料消費社会へと社会構造が大転換する。さて次は、何が出てくるか、楽しみである。

いま、定年を迎え、これまで縁を結んでいた諸先生、諸職員、卒業・修了生諸氏、気心知れた古老の方々（お顔が走馬燈のように脳裏を巡っています）、この場をお借りして心から積年のお礼を申し上げ、謹んで定年退職の挨拶に替えさせていただきます。また、「農」を基軸に、大学生活を謳歌させていただいた岐阜大学教職員各位に心から感謝いたします。

退職記念事業のお知らせ

後藤清和教授の

定年退職のお知らせ

応用生命科学課程 食品生命科学コースの後藤清和教授は、平成27年3月31日をもって定年退職されます。

先生は、平成元年に京都大学農学部助手から本学農学部農業工学科および生物生産システム学科に助教として転任され、平成12年に教授に昇任されました。平成16年からは学部改組により応用生物科学部教授として教育・研究に従事されました。

先生は、日本農業の中心である米作、特に収穫以後の調製技術に関して、低コストでありながら高品質であることをテーマに、各種の新規技術や農産施設の合理化について研究され、現在の技術確立に貢献されるとともに、多くの優秀な人材を社会に輩出されました。また、予算施設委員、入試委員、教務厚生委員をはじめ生物生産システム学科科長、応用生命科学課程課程長などを務められ、学部運営に貢献されました。

先生のご退職にあたり、最終講義を平成27年2月4日（水）13時より、応用生物科学部101多目

的ホールにおいて開催しますので、多数のご参加を賜りますようお願い申し上げます。また、講義の後、15時30分よりA棟2階の第1会議室において懇親会を開催する予定です。

（西津貴久）

高見澤一裕教授の

定年退職のお知らせ

応用生命科学課程分子生命科学コースの高見澤先生は、平成27年3月31日をもって定年退職されます。

先生は北海道大学農学部をご卒業後、大阪市立環境科学研究所で様々な都市公害問題にかかわる研究を行われました。その研究成果から北海道大学にて農学博士の学位を取得されました。平成元年に岐阜大学農学部助教としてご着任され、平成16年に教授に昇任されました。平成16年の学部改組からは応用生物科学部教授として、教育研究に従事されてきました。また、連合農学研究科長や産官学融合本部長をご歴任され、大学運営に貢献されました。

先生のご専門である微生物工学を資源・環境問題の解決アプローチ

とし、農産廃棄物からのキシリトール発酵やバイオエタノール生産、塩素化エチレン類で汚染された土壌の微生物修復に関する研究などの多くの成果を挙げ、また多くの人材を輩出されました。

先生のご退職にあたり、最終講義を平成27年2月4日（水）13時より、応用生物科学部101多目的ホールにおいて開催します。多数のご参加をお待ちしています。また講義終了後、15時30分からA棟2階第1会議室において茶話会を開催予定です。

（中村浩平）

百町満朗教授の

定年退職のお知らせ

生産環境科学課程 応用植物科学コースの百町満朗教授は、平成27年3月31日をもって定年退職されます。先生は、昭和63年3月に北海道大学農学部から岐阜大学農学部へ助教として転任されました。平成3年に教授へ昇任された後、平成16年からは学部改組により応用生物科学部教授として教育・研究に従事されました。この間、研究においては、リゾクトニア菌をはじめとする土壌病原菌の生理・生態やアールバスキュラー菌根菌の植物共生、有用微生物を用いた植物病害の生物防除に関する研究に精力的に取り組まれ、多くの業績

を残されました。そして、平成12年には日本植物病理学会から学会賞を授与されました。また、研究・教育を通じて現在国内外で活躍中の多くの優秀な人材を輩出されました。さらに、日本土壌微生物学会会長、バイオコントロール研究会会長、日本植物病理学会会長という要職も歴任され、土壌微生物学および植物病理学の発展に多大なる貢献をなされました。学内においては、生物資源生産学科長、応用植物科学コース長および生産環境科学課程長を務められ、学部運営に尽力されました。

先生の退職にあたり、3月上旬頃にささやかながら懇親会を開催する予定でありますので、研究室OBならびに同窓生の皆様には多数のご参加を賜りますようお願い申し上げます。なお、懇親会の詳細は研究室ホームページ等で後日ご案内致します。

（清水将文）

木村正信教授の

定年退職のお知らせ

生産環境科学課程、環境生態科学コースの木村正信教授は、平成27年3月31日をもって定年退職されます。先生は昭和51年3月北海道大学大学院農学研究科修士課程を修了され、直ちに岐阜大学農学部助手に採用されました。その後、

講師、助教授と昇任され、平成16年4月からは岐阜大学農学部から応用生物科学部への改組にともない、生産環境科学課程の助教授、准教授としてご活躍され、平成20年10月に教授に昇任されました。この間、研究においては、沖積扇状地の砂防工法、荒廃溪流における土砂礫の移動過程と砂防施設の効果、河畔林の構造と河川生態系との関わり、自然回復緑化および生物多様性緑化、および、海外における森林の公益機能と流域保全など流域及び森林保全に関する広範囲な課題に取り組みられ多くの業績を残されました。教育においては、全学共通教育のドイツ語を長く担当されたことに加え、学部教育では、砂防学、流域保全学、測量学、測量学実習などの専門科目を担当され、教育・研究を通して多くの優秀な人材を育成されました。学内においては、入試専門委員、学部入試委員、予算施設管理委員、大学院委員、教学委員、フィロド科学教育研究センター運営委員を歴任され、本学および本学部の発展に寄与されました。学外では、伊勢湾総合環境対策審議会委員、砂防環境整備委員会委員などの国土交通省の委員や森林審議会林地部会長、治山林道研究発表会審査委員長など岐阜県委員を歴任され、国土や森林の保全に係わる政策立案においても多大な貢献をされました。

なお、本来であればこのような功績を残された先生に対する感謝の念を含めて退職記念事業を盛大に実施すべきところですが、先生の強いご意志により執り行いません。研究室のOBならびに同窓会の皆様には何卒ご理解下さるようお願いいたします。

(向井 護)

松本康夫教授の 定年退職のお知らせ

松本康夫先生は、京都大学修士課程を修了後、昭和49年に岐阜大学農学部助手としてご着任されました。その後、講師、助教授を経て、平成5年に教授に昇任され、平成27年3月をもって定年退職されます。その間、生物生産システム学科長、連合農学研究科専攻長など数多くの委員を歴任され、大学の管理運営に貢献されました。研究面では、岐阜大学に着任された当初は、農地工学研究室に在籍し、岐阜県の中山間地で課題となっていました造成農地の土壌浸食について精力的に取り組み、その研究成果「開畑地における土壌浸食過程と保全工法に関する研究」に対して、昭和57年に農業土木学会（現在、農業農村工学学会に改称）から学会賞が授与されました。その後、昭和63年の農学部組織改編を契機に、新しい分野として農

村計画学研究室を立ち上げ、現在に至るまで当分野の教育研究に心血を注がれ、先生の薫陶を受けた多数の卒業生を社会に送り出されました。農業農村工学学会では、評議員、研究部会長として、また、農村計画学会では評議員として、学会の発展にご尽力されました。また、岐阜県、愛知県、東海農政局の各種委員を歴任され、東海地域における農業農村整備事業の発展にも大きく寄与されました。

在職中の先生のご功績とご指導に心より敬意を表すとともに感謝の意を表したいと思えます。大学退職後は健康に留意され、残された我々に末永くご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

(千家正昭)

同窓会長賞 受賞者

同窓会長賞は、毎年1回、優秀な学生の日頃の努力を顕彰する目的で、平成19年度に設立されました。平成25年度も、各課程および専攻からの推薦を受けて、応用生物科学研究科の学生の中から、次

の受賞者が決定されました。受賞者には心よりお祝い申しあげます。また、なお一層のご活躍を期待いたします。

■受賞者（敬称略）

食品生命科学課程	磯貝 渚
生産環境科学課程	平尾 美樹
獣医学課程	辻 遼子
資源生命科学専攻	田村 直希
生物環境科学専攻	安佐伊 美夏

磯貝 渚

この度は、同窓会長賞という素晴らしい賞をいただき、誠にありがとうございます。この賞をいただくことができたのは、熱心にご指導してくださった先生方、共に高め合った友人達、支えてくれた家族のおかげだと思っております。心から感謝いたします。

今後、大学院の生活においては、4年間で学んだこと、身につけた技術を生かし、価値ある研究成果を出せるよう日々努力をしていきたいと考えております。

平尾 美樹

この度は同窓会長賞という素晴らしい賞を頂きまして、誠にありがとうございます。岐阜大学での4年間は、たくさんの方と出会い素晴らしい経験をさせて頂きました。学生生活最後にこのような名誉な賞を頂き大変嬉しく思います。岐阜大学に入学したことで、自分のやりたいことを見つけることができた、今の職業につくことが出来ました。大学で学んだ知識や経験を活かし、社会人として会社や地域に貢献できるように精一杯努めていきます。

辻 遼子

この度は、同窓会長賞という素晴らしい賞をいただき、誠にありがとうございます。岐阜大学での6年間は、ご指導くださった先生方、先輩方、同じ志を持った友人たちそして家族の支えのおかげで、獣医師として必要となる専門的な知識を学ぶだけでなく、多くの貴重な経験をさせていただきました。今後これらの知識、経験を活かしながら、理想とする獣医師の姿に近づけるよう自己研鑽に努めてまいりたいと思えます。

田村 直希

この度は同窓会長賞を頂きまして、誠にありがとうございます。これも、日々熱心にご指導下さりました先生方、共に支え合い苦業を共にした友人、そして家族のお陰であると感じより感謝しています。充実した環境で研究活動に専念できたこと、また、友人たちと過ごした6年間は、私にとってかけがえない財産です。今後は社会人としてより一層の努力を続けて行く所存ですので、変わらぬご指導のほど、宜しくお願い申し上げます。

安佐伊 美夏

この度は、同窓会長賞という身に余る賞を頂き、大変光栄に存じます。誠にありがとうございます。周囲の支えがあつてこそその受賞であり、熱心にご指導くださった先生方をはじめ、共に学んだ研究室の仲間や友人達、そして家族の皆様には、重ねて深く感謝申し上げます。岐阜大学での学生生活は、楽しい思い出ばかりではありませんでしたが、苦い思い出も教訓に変え、これからの社会生活に活かしていきたいと思ひます。

吉寄基金

平成25年度受領者報告

マイクロRNA創薬を指向した細胞膜透過性パイ電子充填型人工核酸の創製

上野 義仁

吉寄清己研究支援金より、「マイクロRNA創薬を指向した細胞膜透過性パイ電子充填型人工核酸の創製」の課題にご支援を頂きました。応用生命科学課程の教員として着任して3年目の実験器具・実験設備が不十分な時期に本支援金を頂くことができ、心より感謝申し上げます。本支援金で、人工核酸を合成するための試薬、実験器具並びに合成した人工核酸を安全に効率よく濃縮するための装置を購入させて頂きました。本研究テーマは、その年に配属されてきた卒業生に担当してもらい学生の努力もあり一年間で予想以上に進展させることが出来ました。現

在、新しく配属されてきた卒業生に引き継がれ、本テーマは研究室の重要な研究課題の一つとなっており、有機合成は、一つの反応の結果が出るまでの時間が短く2〜3日あれば上手にいったか否かの結果が分かります。しかし、反応が上手く行かない場合には試行錯誤を繰り返さなければなりません。本基金を利用して多くの反応を検討させて頂くことが出来ました。学生も充実した研究生活を送ることが出来たと思っております。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。今後も、得られた成果を基に、課程の名声を高めることが出来るよう更に研究を発展させて行きたいと思っております。

微生物燃料電池のための電極修飾技術の開発

中村 浩平

吉寄清己研究支援（奨励研究）より、「微生物燃料電池のための電極修飾技術の開発」の課題でのご支援頂きました。これまでに平成22、23年度にも研究支援を頂いており、本課題はそれらの

課題に関連するものです。微生物燃料電池は主に有機物がもつ化学エネルギーを電気エネルギーに変換する際に微生物を触媒とします。微生物が分解できる物質であれば、理論的には全てから電気を創りだせます。

触媒となる（複数種の）微生物は様々な役割を分業しており、なかでも有機物から取り出した電子を電極に流し込む、電気生産菌が重要な役割を果たしています。電気生産菌として代表的な微生物がゲオバクター属細菌です。私たちは本研究支援を受けてこれまでに二株の新規ゲオバクター属細菌を報告してきました。

微生物燃料電池は稲わらの未利用バイオマスからも電気を創りだすことができる技術です。しかしながら、その出力は低く、性能向上には様々な課題を克服しなくてはなりません。そのひとつに電気生産菌と電極間における電子移動があり、電子の流れをスムーズにすることで燃料電池の性能向上が考えられます。そこで私達はゲオバクター属細菌と酸化鉄の関係を利した電極修飾を行い、微生物燃料電池の性能向上を試みています。研究成果の報告は少し先

になりそうですが、研究を鋭意継続中です。

最後になりましたが、ご支援頂きました吉寄清己さまに改めて深く感謝を申し上げます。

C19 吉寄清己研究支援寄附金の今年度受領者

昭和19年9月に農芸化学科を卒業された吉寄清己氏からの支援は「吉寄清己研究支援寄附金」として平成19年度から始まり、本年度を含めて延べ11名、支援金総額は950万円に上り、課程としても感謝の念に堪えません。本年は吉寄氏の期待を考慮して、平成26年度は、奨励研究として「微生物燃料電池の稲わら実証装置の設置」（中村浩平准教授）に75万を、一般研究として「低環境負荷型社会実現に向けた「C1微生物」の細胞機能の戦略的活用に向けた基盤構築」（中川智行教授）に75万を授与することとなりました。支援を受けた教員は、吉寄氏の支援の趣旨に添って課程の名声を高めるべく、日々奮励努力しており、本年度の成果が期待されています。

（早川享志）

支部会員からの便り

愛知県高等学校

教員支部から

林 広志（A大26）

当支部は、愛知県内の農業高校に勤務する同窓の教員が集まって、昭和40年に結成されました。その後、普通高校に勤める同窓の教員も加わり、現在は、各務同窓会員で現在愛知県内の高等学校に勤務している者及び過去に勤務した者で組織されています。今年度の会員数は、OB72名、現職41名です。OBは、悠々自適の毎日を過ごす方、農業自営を行う方、県内の大学や専門学校、高校で引き続き学生や生徒の指導に携わる方、緑化相談員などとして社会教育に貢献する方など、多方面にわたって元気に活躍されています。一方、現職は、農業高校で農業を担当する者を中心に、普通高校の理科教員や愛知県教育委員会の職員として、愛知県の農業教育・高校教育を支



える力となるべく頑張っています。支部の主な活動は、総会及び親睦会の開催、会員名簿の発行などです。総会は現職会員の多い農業高校が輪番で幹事を担当し、毎年6月下旬に開いています。今年は安城農林高校が幹事で6月28日に安城市内に於いて開催し、21名が参加しました。母校からは応用生

物科学部応用生命科学課程の前澤重禮教授がご臨席くださいました。総会では、半田農業高校前校長岡田雄司支部長より挨拶があり、OBを代表して神谷誠先生の挨拶の後、前澤教授から母校の近況について説明がありました。議事では私が支部長に選出され、会計報告の後、次期当番校を確認しました。また、総会の最後に、山本雅義先生並びに竹本興一先生のご逝去を悼んで、参加者全員で黙祷を捧げました。総会後の懇親会では、会員それぞれの近況などを語り合い、しばし時を忘れて楽しく過ごしました。支部活動のさらなる活性化と今後の発展のためには、優秀な生徒を育てて母校に入学させ、高校教員として愛知県に戻すことが欠かせません。互いに力を合わせて引き続き頑張っていこうと盛り上がりました。最後は校歌と寮歌を声高らかに斉唱し、互いの健勝と活躍を誓い、再会を約して散会しました。

思い出すことも

（その三・完）

前富山県支部長

温井 喜彦（A大8）

私は、昭和三十一年四月、農学部農学科へ入学した。当時、国立大学は、旧帝大系を中心とする一校と、岐阜大、三重大、岩手大などの二期校グループと、二度の受験チャンスがあった。

岐阜大農学部は、農学科、林学科、農業工学科、農芸化学科、獣医学科及び総合農学科があり、二年後期から専門課程へ進んだ。

農学科では、遺伝育種学、植物病理学、作物、園芸、昆虫、農業経済学などの研究室があり、私は農業経済学を専攻した。

農芸化学科の林金さんこと林金雄教授の「タンパク質の合成」の講義が印象深く、今も脳裏に残っている。

当時、農業経済学界は、東大の東畑精一教授をリーダーとする近代経済学派と、片や同じく東大の近藤康男教授を一方の旗頭とする労働学派とが学界を二分していた。

昭和三十一年の国の経済白書は、「もはや戦後ではない」と述べ、我が国経済は、神武景気と言わ

れる本格的な高度経済成長時代に入り、活況を呈していた。

岐阜のまちも、新岐阜駅前から徹明町、柳ヶ瀬界限にかけて大変賑やかであった。

映画もまた全盛時代で、石原裕次郎の日活映画や、「OK牧場の決闘」「夕陽のガンマン」などの西部劇をよく観た。

映画を観たあと、自由書房へ入ったり、「赤と黒」「白十字」などの喫茶店でコーヒを飲むのも楽しみであった。

富山県の片田舎から出てきた純朴な？農村青年にとって、どれもが大変新鮮で魅力的であった。今日、シャッターを下ろした店が多く、柳ヶ瀬通りはシャッター通りと化し、空洞化が著しく、さびれ、様変わりしており往時の賑わいぶりを思うと一抹の寂しさを感じる。これも時代の流れであろうか。

また、学生時代、岐阜公園から金華山へのロープウェイが開通し、金華山へ登ったり、長良河畔を散策したり、犬山、木曽河畔、名古屋へも足を運んだ。

柳ヶ瀬通り商盛会では、「柳ヶ瀬ブルース」の美川憲一に再度登場願って、旧商店街の活性化に努めていると聞く。

終りになったが、富山県支部で

各務同窓会報

は、去る十一月一日に、富山市内において支部総会と懇親会を開いた。大学からも先生にご出席いただき、大学や同窓会の近況報告をいただいた。

東京E科会・東京E科現役会
合同総会を開催

細田 洋志(S大12)

東京E科会は、中央官庁の本省庁に在籍した農業土木職のOBにより組織されています(平成26年4月現在27名)。東京E科現役会は中央官庁の本官庁に在籍している(したことのある)農業土木職の現役職員で構成されています(平成26年4月現在33名)。

両会の合同総会は初めての試みでしたが、両会長が打合せを重ね、4月14日に都内にて無事開催することができました。ご来賓として、大学から松本康夫教授をお迎えし、大学の近況等を伺うことができました。また、総会出席者には松本教授の教え子も多く、当時の苦案に花を咲かせていました。その松本教授が今年度で退職されるということで、大変驚きました。私は松本研究室出身であり、論文

作成に関し、非常にお世話になった者の1人です。先生、長年の研究生活、お疲れ様でした。退職後も健康で充実した第2の人生を過ごされることを祈念いたします。もう1つのニュース。それは、

出席者の年の差です。東京E科会の櫻井さん(E4)は88歳、東京E科現役会の下出さん(AE大1)は28歳、その差、何と60歳。非常に長い歴史を目の当たりにし、改めて農業土木・農業農村整備が数多くの経験と苦勞を基に築かれてきたことを実感しました。

合同総会は大いに盛り上がり、あつという間でした。共通の志を持つ者にとって、年の差はあまり関係ないようです。

今後も引き続き、合同総会を行うなど、OB・現役職員の情報交換を図り、両会を盛り上げていきたいと考えております。

喜寿を迎えて思うこと

兵庫支部

宮岡 郁雄(C大9)

希望に胸を膨らませ故郷を離れ、各務原の校門をくぐって60年

近く過ぎた。

当時はまだ戦後のおいが消えないでいたのは、強烈な感受性と強い記憶力のためかもしれない。

当時は全国各地からかなりの入学者が来ており、県人会なるものがあつて先輩・後輩の絆も強いものを感じていた。卒業後、転勤等の関係で一時は住所不明のレッテルを張られかけた時もあったが、お盆や正月など節目節目毎には、故郷の友、同窓同期の友を懐かしく思い、また、彼らとの再会を励みに頑張ってきたことを思い出す。

定年近くになり、縁あつて故郷の兵庫県に永住することが出来た。同窓会有志より、兵庫県支部の紹介と入会を勧められ、300余名の会員でかなり賑わっていた(同期も12名いた)が高齢化の波と地盤沈下が進み、加齢とともに話題も健康と病気が主体となってきた。また時代とともに少子化の影響か???後輩会員の減少傾向が著しく、寂しさを肌で感じる。

3年に1回の総会と年数回の役員会や支部便りの発行などを行っているが、出席者数確保の手段として、役員の倍増案も真剣に検討されることも笑い事ではなくなった。最後に喜寿を迎えて思う「三つの感謝」

「人に感謝」

親・兄弟・友・先輩・後輩・上司・同僚・部下・近隣の方々等「時代に感謝」

小学校1〜2年生時戦争の怖さ・戦後の貧しさ・岩戸、神武景気からバブル景気まで右肩上がりの昇進昇給・有史以来みんな米飯飽食時代・3C・戦争の無い平和・寿命は延び、年金で老後も何とか生きられる。

「自然に感謝」

地球の自然・日本の自然(海山川・四季・花・旬の食べ物)等等。特に自然科学(農芸化学)を学び、生命を維持する食の文化科学・酵素や微生物・栄養と医学的代謝・添加物等、人生を生き抜いていく限り密接な関係を学び、今なお恩師の諸先生方に感謝しながら実生活で役立っている。



会員の受章

山口 雄康 (A22)

瑞宝双光章

平成25年6月1日

中島 充雄 (A40)

平成25年度

第45回中日教育賞

平成25年10月22日

畑佐 邦男 (C24)

旭日双光章

平成25年11月3日

今尾 昭夫 (E大3)

瑞宝中綬章

平成25年11月3日

清水 正巳 (F大10)

瑞宝小綬章

平成25年11月3日

高畑 清樹 (A大24)

平成25年度

教育者文部科学大臣表彰

平成25年11月27日

小林満岐卓大学

名誉教授を偲んで

今はもう「先生ー！」と呼んでも、「やー！西さんかー！」と言うあのニコニコ笑顔の返事が届かなくなつて早くも一年の月日が流れました。今頃は先に逝かれた弟子たちと「水五訓」の訓示やら趣味の旅行と短歌やラグビーに忙しい事と思います。

先生は昭和三十年に農学部農業水理学講座担当として転任されて以来、今日まで人生訓「水五訓」とオンサイド・ノーサイドのラガー精神によつて私共を指導してくださいました。

「水五訓」は作者も年代も不明であり、原作を口語体に直す時に色々文句が変わっている様ですが、満さん宅の応接間に所蔵されていた「水五訓」は次の通りです。

- 1、自らを活動して他を動かすは水也
 - 2、障害に逢て激しくその勢力を倍加するは水也
 - 3、常に己れの進路を求めてやまざるは水也
 - 4、自ら潔くして他の汚濁を洗ひ而して清濁併せ容るるは水也
 - 5、洋々として大海を充たし発して雲となり雨と変し凍ては玲瓏たる氷雪と化してその性を失わざるは水也
- これこそ人の進むべき道を訓じた

名訓です。

又満さんの趣味は、岬灯台・終着駅・城址等があり本当に多種あります。毎年の学会や各種会合と余暇を利用して各地を廻られて、更に弟子の職場にも立ち寄りられて御指導をして頂きました。そして筆まめな満さん、旅先から或は帰宅後その模様をハガキ等で時には一首を添えて御教示して下さいました。先生のお宅にお邪魔をする

と何時も机に向かつてペンを走らせて居られ、これらも満さんのノーサイドの行き方かと思ひます。生涯現役を貫いて93歳の天寿を全うするまで指揮台にたった巨匠指揮者を、ある音楽カメラマンが「長生きは人生最高の芸術だ」と評しました。

満さんもまさしく生涯學術振興や地域発展と弟子の指導に当たられて97歳の天寿を全うされた事は、これに勝るとも劣らぬ「人生最高の芸術を描かれた方」だと思ひます。これも先生に対する献身的な奥様の日常健康管理、特に「酒は週のうち晴れた日と雨の日にしかならない」と公言されていた先生への日常管理と自身の長年鍛え抜かれた健脚にあると思ひます。

最後になりますが、こちらには未だ大勢の弟子たちが頑張っています。これから順次そちらへと逝きますので「やあー！来たかー！」と言つて、あのニコニコ笑顔で迎えて下さることを願っています。

それまでどうぞ安らかに眠りください。

(E大5 西脇 武) 合掌

葛谷泰男先生を偲んで

葛谷泰男先生ご逝去の報を聞いたのは昨年8月、ザルツブルクの街中を歩いている最中のことでした。訃報掲示板に21日ご逝去の記載があったことを現職の教員からの携帯電話連絡として知ったのでした。本当に思ひがけないことでした。

先生には、確か一昨昨年の2月に岐大をご訪問いただいた折、久方ぶりで少しばかりお話しをうかがうことが出来ました。お体が多少弱つてきたとはおっしゃつておられたものの、トレードマークだった人一倍大きなお声は健在で、ご自宅からお一人で電車とバスを乗り継いで来られたとのことでした。お見かけしたところ足腰もお丈夫で、大変お元気な様子に安心したことを思い出します。

軽い脳梗塞を患われた後のご体調があまりすぐれないとの由を賀状でうかがつてはいましたが、まさかこのような悲報を受けるとは思ひもよらず、ただ呆然とするばかりでした。

先生は岐阜農林専門学校獣医畜産科を昭和24年3月にご卒業後、昭和29年3月岐阜大学農学部助手、

同助教を経て昭和60年4月には教授に昇任され、家禽畜産学科畜産製造学講座を担当されました。昭和63年の農学部改組後は生物資源利用学科食品科学講座において、食品機能化学分野の教育、研究に携わられました。研究面では主として乳汁に関連する研究に邁進され、農学博士号の対象となった「乳汁及び乳製品のビタミンに関する研究」、また岐阜新聞大賞授賞の対象となった「乳汁のビタミンとホスファターゼの生化学的研究」など、いずれも斯学の進歩、発展に大きく貢献されました。教育面においては170名に及ぶ専攻生を教育され、多くの有為な人材を社会に送られました。

享年83歳での突然のご逝去に対し、ここに心からのご冥福をお祈り申し上げ、あわせて生前のご厚情に心より感謝申し上げます。(金丸義敬)

黒田佐俊先生を偲んで

黒田佐俊先生は平成25年12月6日に奥様を追うように90歳にて永眠されました。お子さまたちに見守られる中での安らかなご臨終であつたと伺つておりますが、先生を失つてしまった悲しみはとどまるところを知らません。心からのご冥福をお祈り申し上げます。

先生は、大正12年12月28日岐阜県にお生まれになりました。昭和

18年9月岐阜高等農林学校獣医学科をご卒業後、直ちに東北帝国大学理学部に進まれ昭和21年9月ご卒業、10月岐阜農林専門学校科学研究補助員、その後、助手、講師、岐阜大学農学部講師、助教を経て、昭和48年4月教授となりました。昭和37年3月には京都大学から農学博士の学位が授与されています。昭和62年3月31日停年により岐阜大学退職、岐阜大学名誉教授の称号を授与されました。

その後直ちに学校法人聖徳学園大学岐阜教育大学教授となり平成9年3月31日定年により退職、聖徳学園大学名誉教授の称号を授与されました。この間、先生のご研究は、植物生理学に始まり農産物の物的流通へと発展し、昭和48年には国立大学で初めて、農産物の物的流通を科学する農産物流通科学講座を農学科に新設、初代教授として同講座を担当されました。先生の教育・研究歴は岐阜大学40年6ヶ月、岐阜教育大学10年の合計50年6ヶ月の永きに及び、数え切れない有為な人材を社会に送り出しました。昭和55年には岐阜日々賞学術賞を授与されました。大学紛争時代は改革委員会委員長として問題処理に当たり、近年は将来構想委員会委員長として大講座制を導入したほか、大学情報処理センターの初代センター長、大学統合移転に伴う交通対策委員会委員長として、難航する問題を解決へと導き高い評価を得ました。また、

各務同窓会報

大学間共同事業として先生が代表となつて創設した近隣3大学の合同講義を通じて出来た大学間の緊密な連携が岐阜大学大学院連合農学研究科設置の基礎を与える等、今日の本学に極めて重要な貢献がありました。学外にあつては、学会の要職のほか自治体審議会等の会長や委員として社会に大きな貢献をしました。このように、黒田先生は、人格高潔にして人望厚く、永年にわたり教育に尽力し、国内外で高く評価される数多くの優れた研究業績を残すとともに、大学の管理運営、研究成果を反映した社会への貢献等、斯界の発展と振興に尽くした功績は誠に顕著であるとして、平成13年秋には勲三等瑞宝章を授与されました。

先生のご業績の一端を偲ばせていただき、永年にわたり先生から賜ったご指導に対して衷心より厚く御礼申し上げます。先生どうぞ安らかにお休み下さい。

(秋元浩一)

叙位・叙勲

尚、先生方には、次のとおり叙位・叙勲がありました。

小林 満 名誉教授

(元農学部長)

正四位

(平成25年10月22日)

事務局からのお知らせ

各務同窓会の今後を考える―

同窓会員の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。今年度も、年に一回の各務同窓会報を無事発行することができ、会員の皆様方には心より御礼申し上げます。

本年度の各務同窓会の役員会は、水野隼人会長と福井博一名誉会長（学部長）を軸に、7名の副会長、5名の相談役で構成され、それを支える事務局として、現職教員6名（幹事長・幹事・監事）がお手伝いさせて頂いております。以下、事業幹事として本年度の活動に参加して感じた私見を述べさせて頂きます。

現職教員で構成されている事務局の役割として、同窓会の活性化が挙げられます。事務局が実施すべき業務は大きく二つに分類され、一つは、会員の皆様に対して、現在の応用生物科学部の現状を速やかにお伝えしながら、会員同士のつながりを強化していくことです。そのため、毎春開催される代表委員会で、同窓会の課題や将来の姿について忌憚のない意見を出して頂く環境を整備しています。

もう一つの業務は、現役学生に対する同窓会への勧誘活動です。近年における新入生の同窓会加入率は70%台後半です。基本的には全員の新生入生に入会してもらおう

とが継続性のある同窓会づくりの基盤と考えます。現在は、入学式当日に会費納入のお願いを通して勧誘しているのが実態で、入学後の実質的な勧誘活動は実施されていません。卒業時には、学業成績優秀者に対する同窓会表彰制度を設けていることもあり、今後は、入学時だけでなく在学中、特に最終学年次に積極的な勧誘活動を実施する必要性を感じています。

そのためには、各務同窓会に入会する意義を丁寧に説明することが必要です。卒業後には、各務同窓会への帰属意識を醸成させる仕組みの構築が必要でしょう。さらには、応用生物科学部の現職教員全員が各務同窓会の存在意義を認識し、その潜在力をアピールすることを通して、未加入者に対する積極的な勧誘活動の必要性を感じることも必要です。

各務同窓会は全国に64支部存在しています。そして、全国各地で同窓会活動されている会員の高齢化が進行しています。今後の各務同窓会のあり方に関するご意見を同窓会事務局（058-1293-3411、ob-abs@gifu-u.ac.jp）までお気軽にお寄せ下さい。よろしくお願い申し上げます。末筆ながら、会員の皆様のご健勝とご多幸を心より祈念致します。

（事業幹事：前澤）

寄附金のお願いについて

平成20年から始まりました寄附金制度は、趣意書にもありますように継続して行っていますので、本年度もご協力の程よろしくお願いいたします。

詳細は同封の「応用生物科学部への寄附金拠出のお願い」及び「趣意書」をご覧ください。

お申込みいただきました2週間程あとに、応用生物科学部より、郵便局の振込用紙を送付いたしますので、ご入金いただきますようお願いいたします。

申込書の記入方法

* 申込書に必要事項をご記入の上、下記の住所へお送りください。

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1
岐阜大学応用生物科学部学務係気付
岐阜大学各務同窓会事務局

第95号

平成26年11月28日

岐阜大学各務同窓会

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1

TEL (058) 293-3411

FAX (058) 293-2841

振替 00820-9-12742

http://www1.gifu-u.ac.jp/~kagami01/

e-mail ob-abs@gifu-u.ac.jp

詳しくはこちらを確認してください。

【申込書】

別紙様式第1号

岐阜大学 長 殿

寄附金 千

住所

卒科

卒回（卒年）

第 回

長 殿

（昭和 年 月 日）

印

（欄外にあっては、別紙様式及び様式を参照してください。）

住所氏名を記入し、押印してください。

金額を記入してください。

します。

記

1 寄附金額

円

2 寄附の目的及び条件

目 的

岐阜大学における学術研究費

条 件

なし

3 寄附金の名称

岐阜大学奨学寄附金

4 その他（主たる寄附金対象部局等）

応用生物科学部共通

（対応責任者：職名 応用生物科学部長 氏名 福井 博一）